

応 およそ100年ぶりの大規模修繕 声教院山門 保存修理工事 現場見学会



①間近で鑑賞する屋根の迫力に圧倒 ②保存修理工事前の山門
③専門家からの説明に熱心に耳を傾ける ④取り外した東西の
鬼瓦(上が西、下が東) ⑤上棟式で使われた道具類 ⑥取り外
された吊金物 ⑦移築時の棟札(建物の改修工事の際に記録とし
て棟木などの高い場所に設置される木札)

8月8日、保存修理工事が行われている国指定重要文化財「おうしやうきやういん 応声教院山門」の現場見学会が開催され、市民など47人が参加しました。

中内田にある「ほうだいいん 応声教院」の山門は、大正7年に静岡市の徳川家ゆかりの寺院「宝台院」から移築され、昭和29年に当時の菊川町として初の重要文化財に指定されました。令和5年の耐震診断で傾斜の悪化が判明したため、山門を一度全解体し、補修を加えて元の姿に復原する工事が、令和6年度から令和9年度末にかけて行われています。解体を伴う大規模修繕は、現在の場所に移築されて以来およそ100年ぶりとなります。

見学会では、修繕に携わる専門家が、山門の構造や工事の過程、修理に伴う調査で移築前の姿が分かったことなどを説明。参加者は興味深そうに解説に耳を傾けていました。また、実際に保存修理工事が行われている山門の屋根を見学。迫力ある屋根をすぐ近くで鑑賞しました。

会場には、小屋裏から発見された上棟式で使われた道具類や取り外した吊金物、移築時の棟札などが展示されました。

T 目指せ！茶ンピオン！ ー1 グランプリ in 菊川

8月7日、市内の小学3年生から6年生の50人が参加し、お茶に関する3つの競技に挑みました。内容は、30問のお茶に関する問いに答える「お茶の知識〇×クイズ」、見た目と香りだけで10種類の茶葉を当てる「お茶の種類当て競技」、審査員の前で急須を使ってお茶を淹れる「お茶の淹れ方競技」の3つ。児童たちは緊張した様子ながらも、事前に配布されたテキストで学習したことや、練習したお茶の淹れ方の腕前を発揮。見事、上位に輝いた5人には賞状と副賞が贈られました。



①真剣な表情で競技に臨む ②上位入賞者で記念撮影

夏 県内トップで刈り取り 空の中で新米初収穫

7月28日、菊川水田受託営農組合に所属する長谷川まさゆきさんが、極早生品種『なつしずか』の刈り取りを行いました。県内で最も早い収穫で、この日は30アールを刈り取りました。高温障害対策や米需要の急増を受け、例年より10日ほど早く種まきをし、3月26日に田植えを行ったもの。長谷川さんは「少しでも早く新米を届けようと例年より管理を徹底しました。おいしい新米を皆さんに楽しんでほしいです」と米づくりの思いを話しました。



①黄金に輝く『なつしずか』 ②夏空の下、コンバインで収穫